

令和4年度 ゆずの樹はうす 事業報告書

1 総括

令和3年4月に共同生活援助さかえホームの併設型短期入所事業所として開設したが、職員確保が進まず、3年度中に事業は開始できなかった。4年度になっても支援体制の確保が思うように進まなかったが、6月に緊急利用の相談が入り、急遽職員を配置し受け入れを行った。更に9月に再度他の緊急利用があり、11月までに2名述べ121日の緊急の受け入れを行った。緊急利用終了後、体験利用登録者の8名（GH入居の為、計画作成時より1名減）のアセスメントを実施し、2月から体験利用を開始したが、利用は3名で延べ8日となった。

2 事業概要

- 1) 施設名 ゆずの樹はうす
- 2) 事業種別 短期入所事業（グループホーム併設型）
- 3) 所在地 東京都小平市栄町2-1-15
- 4) 経営主体 社会福祉法人 未来
- 5) 利用定員 1名
- 6) 法人認可年月日 平成14年12月11日
- 7) 事業指定年月日 令和3年4月1日
- 8) 職員 (令和5年3月31日現在)
管理者 1名
サービス管理責任者 1名
世話人 2名
生活支援員 16名（併設しているさかえホームと兼任）

- 3 基本理念 一人ひとりの自己実現の支援
互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築
安心と希望のもてる生活

4 基本方針

- 1) 一時的な生活支援
家族または介護者が何らかの理由（冠婚葬祭、病気、事故、休養、その他の理由）により、一時的に自宅で支援することが困難な場合に、日常生活に必要な支援を行う。
- 2) 生活体験としての支援
生活体験の幅を広げ、より豊かな生活を支援する。

5 実施事業（活動内容）

- 1) 居室の提供
- 2) 食事の提供
- 3) 洗濯、掃除等の生活支援
- 4) 健康管理
- 5) 日中活動先（福祉サービス及び職場等）、関係機関との連絡、調整
- 6) 入浴等生活行為の支援
- 7) その他日常生活に必要な支援

6 日課

- | | | |
|---------|--------|----------------|
| 5時00分～ | 7時30分 | 起床 |
| 7時30分～ | 9時30分 | 日中活動先及び勤務先等へ外出 |
| 16時00分～ | 17時00分 | 利用開始 |
| 16時00分～ | 20時00分 | 入浴 |

18時00分～19時00分 夕食

20時00分～22時00分 就寝

7 重点課題・目標

1) 活動

- (1) 支援体制を整備し、緊急対応の支援を行うことでセーフティネット機能の役割を果たす。
併設しているグループホームの支援体制とあわせて職員確保を行い、グループホーム職員との連携により、重層的な支援を行うことで、緊急時対応を行う。
- (2) 体験利用者の支援内容を充実する
利用時の支援状況や利用者の様子及び行動等を丁寧に記録し支援内容の充実を図る。
- (3) 利用者が安心して利用できる環境をつくる
- ① 利用前に本人、家族から状況や要望の聴取を行った上、アセスメント情報や申し送りによって、確実な情報を職員間で共有することで円滑な支援を実施する。
 - ② 利用後に利用時の様子を報告し、意見や感想を聴取することで支援の評価をおこなうとともに、次回の支援に役立てる。
 - ③ 事故防止を徹底する
 - ・服薬管理方法等のマニュアルを遵守し、誤薬等の事故を防止する。
 - ・無断外出行為のある利用者に対し、見守り及び建物内の施錠を徹底する。

【成果と課題】

併設しているさかえホームと併せ、必要な常勤換算13.5名に対して、年度末の体制は11.3名となった（年度当初12.2名で年度内0.9名減少）。職員体制は充足しなかったが、さかえホームの職員の勤務調整を行い、緊急利用の相談があった利用者2名に対し、6月から11月まで延べ121日受け入れを行った。1名は精神科退院後、住まいが決まるまでの緊急利用だったが、退院時カンファレンスに参加し、利用前に利用者情報の把握ができたことで、スムーズな受け入れが行えた。他1名は法人内の短期入所「とまり樹はうす」の利用経験があり、同事業所から情報を得たことで、同様にスムーズに支援を行うことができた。

体験利用については、8月より登録者8名で開始する予定であったが、緊急時の利用者を受けたことで開始は2月となった。1月に8名の家族と面談を実施し、アセスメントをおこなったが、内5名は令和5年度からの利用を希望した。利用を開始した3名のうち1名は短期入所の利用が初めてで、慣れない環境のためか、緊張や不安な様子が伺えたが、拒否や混乱等の様子は見られなかった。3名とも支援上の留意点等の情報を職員間で共有することで、大きな問題なく支援を行うことができた。また、利用終了後、家族からは今後も継続して利用したいとの話があった。

2) 人材育成

- (1) 新任管理職の育成・指導
管理職を中心に、職員への引継ぎ及び周知事項等の伝達を徹底し、職員の業務の標準化を図る。

【成果と課題】

事業所の管理業務については、指導担当のみらいホームの管理者から実務を通じて指導を受けた。しかし、慢性的な職員不足のうえ、6月に併設しているさかえホームのユニット責任者であった正規職員1名が退職したことや（9月に後任を採用）、新入職員の多くが未経験なこともあり、現場の支援を優先せざるを得ず、知識の習得は計画通りに進まなかった（自立支援給付費・都加算請求は引継ぎ完了）。来年度も引き続き実務を通して管理業務全般の知識習得する予定である。

- (2) 職員間の連携・情報共有により支援の統一を図る
ケース記録・業務日誌・引継ぎノートへの記入の精度を向上し、確認を徹底することで、支援の統一を図る。

【成果と課題】

令和4年度の利用者は5名で、支援上の留意点等の伝達を施設長から主に口頭にて行い、概ね情報の共有はできていた。ただし、支援体制の不足から、管理者が現場支援に時間が割かれ、職員への充

分な指導が行えず、ケース記録の記載については、利用者の状況の記載が不十分で、利用時の様子の共有に活用できるものにはなっていなかった。また、業務日誌、引継ぎノートの記載漏れも多く、申し送り事項のスムーズな伝達も不十分となった。

3) 経営管理

(1) 月次試算を正確に行い、計画的に予算を執行する。

【成果と課題】

月次試算報告により経営状態の把握を行い、計画的に予算を執行した。

(2) 令和4年8月より事業を実施し、介護給付費収入の確保を行う。

・ 1か月平均の目標利用率： 60%（平日70%、休日25%）

・ 令和4年度目標額 《8月～3月（8か月分）》

介護給付費収入 約140万

都加算収入 約 60万

約200万

【成果と課題】

利用率、公費収入（介護給付費・都加算）ともに目標に達しなかった。

	令和4年度目標額	令和4年度実績	目標との差
利用率	60%	34.2%	△25.8%
介護給付費収入	約140万	93万	△47万
都加算収入	約60万	30万	△30万
合計	約200万	123万	△77万

8 夜間等緊急時の対応

夜間については、開所日数125日の内50日は、専任の職員を1名配置し、75日は、さかえホームとの兼任職員1名を配置した。緊急対応が必要な事案は発生しなかった。

9 実施状況

1) サービス実施日数 自：令和4年4月1日 至：令和5年3月31日
125日間(内、土・日・祝日開設37日間)

10 利用状況

1) 利用登録者数 8名

2) 実利用者数 5名

(1) 利用目的

①緊急利用 2名

②体験利用 3名

合計 5名

(2) 平日・土日祝日利用

①平日 5名

②土日祝日 2名

合計 7名

※7名中2名は平日と休日併用。

3) 延べ利用者数

(1) 利用目的

①緊急利用	121名
②体験利用	3名
合計	125名

(2) 平日・土日祝日利用

①平日	83名
②土日祝日	42名
合計	125名

1.1 利用者状況

1) 年齢別

	実人数	延べ人数
・20歳以上30歳未満	2名	78名
・30歳以上40歳未満	2名	46名
・40歳以上50歳未満	0名	0名
・50歳以上	1名	1名
合計	5名	125名

2) 区分別

	実人数	延べ人数
・区分3	1名	1名
・区分4	0名	0名
・区分5	2名	78名
・区分6	2名	46名
合計	35名	125名

3) 性別

	実人数	延べ人数
・男性	5名	125名
・女性	0名	0名
合計	5名	125名

4) 居住状況

	実人数	延べ人数
・管内居住	4名	123名
・管外居住	1名	2名

1.2 環境の整備

共有スペース及び居室を定期的に清掃し施設内美化に努めた。

1.3 健康管理

精神科退院後の緊急利用の利用者については、2か月間の利用期間の内、不安感を訴えることが頻回にあり、その都度訪問看護師に連絡を取り、不安感を取り除くための助言等を受けた。その他の利用者については、基礎疾患のある利用者はなく、大きな健康問題は起きなかった。新型コロナウイルス感染症については、基本的な感染防止対策を行った。さかえホームで複数感染者が発生したが、ゆずの樹はうすの利用者へ感染が広がることはなかった。

1.4 防災計画

さかえホームとともに災害時避難訓練を年2回実施した。